

常温保存可能牛乳の認識及び消費状況 調査結果について

〇今中正美、道本千衣子（跡見学園女大短大）

目的 常温保存可能牛乳（L.L.牛乳）は1985年7月8日の厚生省令改正により販売されるようになった。そこで、1987年12月、首都圏の消費者にどのように認識、利用されているか、また、味の点でL.L.牛乳は超高温殺菌殺菌牛乳（U.H.T.牛乳）と比較してどうかを調査し、その結果から首都圏の消費者にはL.L.牛乳浸透が難しいのではないかと推測した。

今回はそれを検証するため、10年経過後の1997年12月同様調査を行った。

方法 消費者側（調査対象として、本学家政科学生とその父兄）、流通側（調査対象として首都圏の販売業者）へのアンケート、味に関しては、L.L.牛乳とU.H.T.牛乳の三点嗜好法による官能検査を行った。

結果 1. 前回調査時、全体の70%以上がL.L.牛乳を知っていたが、今回の調査では30%未満であった。また、前回、全体の50%の人がL.L.牛乳を1回以上購入し、購入理由で一番多い回答は「普通の牛乳が売り切れていたから」というものであったが、今回の調査では、L.L.牛乳購入経験者は20%未満であった。しかし、購入理由は「長期保存のため」という回答が半数以上を占めた。

3. 買わない、または、継続して買わない人の主な理由は、前回同様、「あえて長期保存可能なものを選ばなくても普通のもので充分だから」であった。

4. 流通側では、前回、75%強がL.L.牛乳を販売していたが、今回は36.4%にとどまった。

5. 官能検査の結果は、前回同様、かなり高い水準で両者を識別可能であった。また、L.L.牛乳を好む層35.9%、好まない層64.1%、の二階層が存在する。